

# 🔥 コンロ火災に気をつけましょう！！ 🔥

毎日の料理にガスコンロはかせませんよね。しかし、誤った使い方や不注意により、住宅火災の出火原因としてガスコンロが毎年上位にあげられています。

大切な命を守るため、いま一度コンロの正しい使い方を確認しましょう。

## ～コンロ火災を防ぐために～

### 1. 調理中はコンロから離れない！

コンロ火災の出火経緯で最も多いものは「放置する・忘れる」です。コンロに火をつけたまま、お客さんが来てその場を離れたり、電話で話になり夢中になり居間の椅子に腰かけて、そのまま放置してしまうなんて事のないよう、コンロから離れる時は必ず火を消しましょう。



### 2. コンロの周りに燃えやすいものを置かない！

ふきんやキッチンペーパー、お肉やお魚の入っていたトレーは近くにありませんか？直接火に触れなくても輻射熱により着火することもあるため、コンロの周りは整頓しましょう。



### 3. コンロ周りや魚焼きグリルはこまめにお手入れを！

コンロの油汚れを放置したまま使用していたり、魚焼きグリル調理のあとのこびりついた汚れや油をそのままにして使用していると、加熱されて突然発火する危険性があります。汚れや油はそのままにせず、こまめに掃除をしましょう。



## ☆ご存じですか??☆

2008年10月以降に製造された家庭用コンロには、次の3つの安全装置が搭載されています。

### 1. 調理油過熱防止装置

鍋底の異常な過熱を検知し自動消火

### 2. 立ち消え安全装置

煮こぼれなどで火が消えるとガスを遮断

### 3. 消し忘れ消火機能

コンロ・魚焼きグリルの火を一定時間で消火

## Siセンサー(安全装置付)コンロ



## もし衣服に火が点いてしまったら

着ている服に、袖口などから火が燃え移ってしまうことを「着衣着火」といいます。正しい対処法を知らないと火を消せないどころか、かえって火が大きくなってしまいます。

### 1. ストップ（止まる）

慌ててしまい走ると、風を起してしまい火が燃えやすくなります。絶対に走らず立ち止まりましょう。



### 2. ドロップ（倒れる）

地面に倒れこみ、燃えているところを、体と地面の間に隙間を作らないようにして地面にくっつけます。



### 3. ロール（転がる）

倒れたまま転がり、窒息消火を試みます。この時、両手で顔を覆って顔への火傷を防ぎます。

